

退任の挨拶

山田 丈夫会長・木村 良成幹事

山田 丈夫会長

昨年7月の会長就任から1年間、会員の皆様の暖かなご支援とご協力により無事に任期を全うすることが出来ました。心より厚く御礼申し上げます。



私とロータリーのかかわりについて、少しお話ししたいと思います。

2004年に入会をしまして、2010年に土居会長のもとで幹事をやらせて頂き、2580地区の約半分ぐらいのクラブへ訪問したことは、大変勉強になりました。

その後2015年より、千代田区議であった石渡さんより後継指名を頂き自由民主党より千代田区議会議員に挑戦し、当選を果たして2期8年務めさせて頂きました。その間、約10年間はクラブの出席やお手伝いはほとんどできませんでした。区議退任後の2022年頃より例会に出席できるようになり、このお茶の水ロータリーのメンバーがだいぶ若返り、クラブとしてのコミュニティが出来ているなど思えて、最初は、この中に入っているだろうか少し不安になりましたが、そこはロータリアンです、会員の皆さんと話をする内に不安はすっかりなくなり、クラブライフを楽しく過ごしております。

2025～26年度のクラブ会長の話を頂き、私としては人前で話をするのが大の苦手でありまして、お断りしようと思いましたが、ロータリーはお願いされたことは断らないとされているのと、私自身も、今年73歳になりますので体の動くうちにクラブにお役に立てることをしようと前々から思っておりましたので、お引き受けしました。私とロータリーについては以上です。

今年度のクラブテーマは「思いやりの心を大切に」と致しました。

奉仕の理念とは「人を思いやり、人のために尽くすこと」だと考え、それがロータリーの基本理念に通じるものだと思っています。

奉仕は「誰かのため」だけでなく「自分のため」にもなる行動だと思います。奉仕を通じ、自分自身と周りの人々、そして社会全体が少しずつ良い方向に変化していくことを願っています。

この一年、活動して印象に残っているものがあります。

まず初めに、クラブ戦略委員会にてクラブ戦略計画を完成させ、昨年の10月に皆様へ配布をさせて頂きました。会員の皆様には、是非とも目を通して頂きまして、クラブの活性化に役立ててもらいたいと思います。

2つ目は、同好会の見直しを行いました。コロナ禍以後活動があまりされておらず、会員相互の親睦を図ることを考え、各同好会が活発に開催されれば、普段例会でお付き合いしているのとは違う一面が見て取れて、温かい気持ちになったり、友情が芽生えたりすると思っています。

尚、炉辺会も復活させ、グループに分かれて何回か実施いたしました。提案した議題につき討論していただき、その報告を執行部に提出いただき大変参考になる意見を頂戴いたしました。これからもこのような炉辺会を定期的で開催していただければ、お茶の水ロータリーも会員一体でクラブ運営が出来ていくと信じています。

3つ目は、新リーフレットの作成であります。我々のクラブは、九段グランドパレスの建て替えのため、ここ後楽園ドームホテルに例会場を変更したこともあり、また、会員増強における新入会員募集にあたり、新リーフレットを説明アイテムとして活用していただければと思います。次期会長の木宮年度の秋ごろには、完成できるように内容を詰めているところでございます。

至らぬ点多々あったかと思いますが、木村幹事をはじめ理事役員の皆様、そして事務局の伊東さんの支えがあったからこそ、今日という日を迎えることが出来ました。7月から木宮会長のもと、新たな年度が始まります。私も直前会長として微力ながらクラブの発展に尽くしていきたいと考えております。

尚、次年度は地区のガバナー補佐という大役が待っております。皆様には、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、我々ロータリアンが笑顔にあふれ、より楽しんでロータリー活動に邁進できますよう祈念いたしまして、最終例会の挨拶とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

木村 良成幹事

幹事としての1年間、皆様に力強く支えられ、無事に務め上げることができました。心より感謝申し上げます。

各種研修会などでガバナーや役員の人たちがご自身の半生を語られると、つい眠気を誘われてしまうこと、本日この例会に参加されている方々は必ず経験されているでしょう。小生はこの1年間の振り返りと、今後のロータリーが置かれる状況についてお話しさせていただきます。どうしても円卓の前でのお話しだと緊張してしまいます。昨日も大学で二コマ授業を行った際は何も緊張しませんでした。円卓でなく、生徒・学生がこちら正面向いた状況だと緊張しないのだと思った次第です。

この1年は、昨年の後半は薬の影響による肝炎、そして今年に入り、ひどい帯状疱疹を患い、千代田6クラブの会長幹事会をお休みさせて頂きなど、皆様にご迷惑をおかけしました。3日間ほどのたうち回るほどつらい思いをしましたが、そのような中でも裏方として、クラブ内の調整や根回しなどに精一杯奔走した日々でした。

次年度以降に会長・幹事そして役員を務められる皆様には、ぜひ帯状疱疹のワクチン接種をお勧めします。2回接種しなければならず、1回2万円ほどと高額である



ため、小生も当初は「妻に相談してから。」と医師に告げて先延ばしにした結果、罹患してしまいました。現在は自治体によって補助が出ますので、絶対必要なものとしてご検討ください。

クラブの運営に関しては、山田会長とともに「炉辺会（家庭集会）」を復活させることができたのが大きな成果です。以前、他クラブの方から「お茶の水ロータリークラブは親睦が少し足りないのではないか。」とご指摘を受け、炉辺会を実施していないことを見透かされたことがありました。それを機に、副幹事の年度より他クラブの炉辺（家庭集）会に実際に参加・視察して運営方法を学び、当クラブでも実施ができるようになりました。

次年度以降も炉辺（家庭集）会は引き続き皆様にご協力いただき、定着はかっているかと思っております。山田会長とは、先月私が髭を剃るまでは「白黒コンビ」として二人三脚でやってまいりました。

少し時間が余りましたので、先ほどの高山会員からの『ロータリーの友』のお話にも関連して、ロータリーの今後について私の考えをお話しさせていただきます。

～ 「義務教育諸学校数の推移」（中略） ～

これからロータリーがどうあるべきかを考えた時、私は全て原点に立ち戻り「地域社会への貢献」及び「より良き社会人の育成」をより一層重視していくべきだと考えます。近年は国際的な活動など多岐にわたる事業が行われていますが、やはり地元地域社会への奉仕活動が原点をさらに強固なものにしていくでしょう。

また、これからのロータリーは、若い世代がよりリーダーシップを発揮し、新しい形を作っていくことが求められます。我々世代のロータリアンは、青少年をしっかりとサポートしていく役割を担うべきです。ロータリーの未来は、私たち一人ひとりがどのように考え、どう行動していくかにかかっています。

以上をもちまして、私の卓話とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。



山田会長、木村幹事、ありがとうございました！